

●10月22日10:00から開催された城陽市緑化フェスティバルに出展参加

私たち里山の会は各種多様な取り組みを初めて取り組むにあたっての大変さを身をもって経験していますので、ぜひ応援していこうと考えています。呼びかけていただきまして有難いと思っています。参加出展をするにあたっての展示物や提示物を考え出すための準備とそれを形にする（見える化）ことに物凄い力量が必要です。そして見栄えも大切ですから苦勞をします。またワークショップの松かさツリーづくりもナンキンハゼの実を一年前に採取し乾燥させて、色付け作業、台木探しをして切断作業、そして各地から松ぼっくりの拾い集め作業と選別、そして台木には柱木と松ぼっくりの取付けと大変な手作業の繰り返しをして作り上げることになります。こうした手作業の準備作業を行って出店しています。今回もこうした手作業を行っての参加でした。播川、有田、大村、森島、太田、金田、深田さんが子供たちのお手伝いをしていただきました。みなさんは相当この活動に親しんで子



どもの扱いにも慣れてこられたので、質問にも丁寧に答えておられました。出展はもちろん下準備に協力頂いた皆さん有難うございました。



●週刊ニュース発行 1000 号達成記念のボールペンのお届け準備完了

皆様には記念のボールペンはいつ届くのかと気にしていただいていたしましたが、すべての準備が整いましたので郵送させていただきました。また手渡しでお届けできるところは可能な限り皆さんで分担をいたしました。大切に使用していただければと思います。多くの皆さんにこれからも日ごろの活動ぶりを週刊ニュースでお知らせしていこうと思います。

●特別採捕許可申請書の提出について

9月30日の木津川ワンドでのイタセンパラの復元を目的に実施した「親子魚釣り」の実施は外来魚のブラックバスなどの肉食魚の駆除を目的にした取組でした。ところが木津川漁業組合に後援を依頼すると漁業組合ではブラックバスなどの外来魚を釣る人たちからも遊漁券の購入をしていただいているので、里山の会の目的に関わらず遊漁券の購入を求めますとのことでした。その後、木津川出張所から特別採捕許可申請書を出して許可を得れば無料になるとの助言をいただきまして、京都府に提出すると木津川漁協からの同意書が必須になっているからよく話し合ってくださいとの返答でした。23日と25日に摂南大学の学生さんにワンドの魚の生息調査についても、遊漁券の購入が条件となりますので、5人分2日間の7000円分を支払う対処をしました。

●木津川希少種生育調査管理作業のうち冬期間の全管理地（35ヶ所 16000㎡）の除草作業が始められました。

25日の定例事務局会議後の13:30分から森島さん太田さん播川さんそして金田さんにも呼びかけて管理地1番の旧八幡東小学校裏（約1000㎡）から始めました。管理地のうち1000



mの広さのところは10カ所ですのでかなり大量の作業になり、特に秋は葛のツルが固くなっていますので刈り取る作業では手間がかかります。刈り取ったものを収集するにはもっとも人手が必要になりますので、できるだけ多くの皆さんの協力をお願いします。25日が初日になりまして、26日にも連続して除草作業を実行します。

●京の川の恵みを生かす会から参加の呼びかけがありました。

10月29日（日）に例年行われている近畿や京都府下は言うまでもなく川好き魚好きの仲間100人以上が自慢の腕で捕獲した獲物（ビワマスやアユなど）を持ち寄って味わう賑やかな時間を過ごされます。そこには持ち寄ったアユを焼いて熱々をいただきます。ほかにビワマスの作りがふるまわれることになっています。去年は伏見の納屋町の川魚店の石黒女将の総菜も用意していただき大変な人気がありました。今年も出展いただきたいものです。参加費は3000円ですが特別料理がこんな安価に食することができるのは年に1回、この時だけです。里山の会からは有田さん播川さんそして山村が出席します。この時の魚焼き用の燃料は里山の会が生産した木炭30kgを提供します。



ビワマスを調理する竹門先生

●10月28日（土）には、韓国の川を親しめるものにしたいと活動されているヤングク教授と学生さんが来日されます。

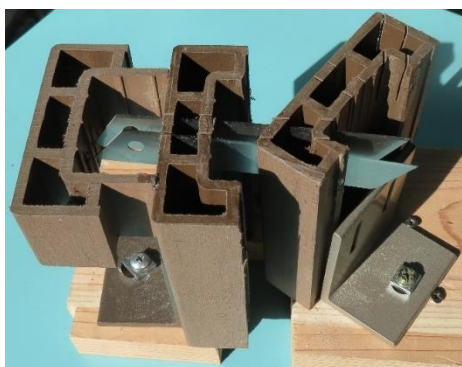
10月28日（土）の午前中は座学で午後の13:00からは京都駅前のキャンパスプラザで活動交流会が行われ、多様性センターや川の恵みを生かす会 鴨川漁協さんたちに加えて里山の会も活動発表をと依頼されています。そして韓国の代表と「川の恵みを生かす会」が今後交流を深めていこうとする締結書の調印が行われることになっています。今年は来訪されたので、来年は日本の方から韓国をお尋ねすることになるだろうとの予定だそうです。きっと木津川での竹蛇籠や中聖牛の取組には興味を持っていただけるのではないのでしょうか。私たちの取り組んできた取り組みが効果を発揮する機会が訪れたように思います

●11月7日（火）13:30に国交省淀川河川事務所から里山の会 事務所に来られます。

主に2023年度の受注業務作業の進行状況の点検だそうです。次に今後の中聖牛の取り扱いなどに関してが議題とのこと。これまでは中間点検は行われてきませんでしたが、職員が全く変わられたので現場視察とされているのでしょう。

●竹ペンづくり作業が大きく改善が進みました。

この作業で最大の課題が竹割作業です。これまで生駒の茶笥組合や、以前に編み棒の生産加工業者を訪ねました。なかには九州の別府の竹製品業者を訪ねていただきました。参考にはなりましたが、決定的なものにはならず苦心に苦心を重ねてきましたが、とうとう竹割機の製作に踏み切る段階に到達しました。そして次の課題は鉛筆の芯を入れ込み穴あけ作業の簡易化、連続



ができる器具道具の工夫になってきました。ここを成功すると大きく前進することになります。まだまだ改善の余地はありますが竹割は1時間の作業で100本の製作が可能になりました。